

第5回 瀬戸内まなび塾 開催の様子

1 開催について

(1) 開催日時 平成27年10月22日(木) 18:30~20:30

(2) 開催日程

- ① 参加者による模擬授業、グループ協議
- ② 講師による指導・助言

講師 市教委担当指導主事(松田・浦上・屋敷)

瀬戸内市立邑久中学校 授業改革推進員 渡邊 裕 指導教諭

(3) 参加者 市内小・中学校に勤務する先生方 13名参加

2 活動の様子(写真)と参加者の感想



模擬授業の導入の場面。本時の模擬授業は中学校第2学年の数学の内容。

【参加者の感想】

・ 授業者の先生の、生徒との心の距離が近い授業を見て、私も生徒の心に寄り添った授業を心がけようと思いました。拍手を大切にされていたり、うまくまとめができている生徒を全員の前で褒めたり、何気ない行動、仕草が生徒の気持ちを動かして、それが最終的には学力に繋がるのかなと思いました。

【授業者の感想】

めあてとまとめのリンクについて、改めて考えることができました。生徒が授業の始めに、これに向けて頑張ろうというめあて、それに沿ったまとめができるように心がけたいです。協議の中で「生徒の発言をひろおう」という部分をさらに心がけた授業展開をしていきたいと思います。



授業者以外の参加者は生徒役に。参加者も真剣に課題に取り組みました。



学習した内容をまとめ、生徒役の参加者が授業の振り返りをする場面。

【参加者の感想】

・子どもの意見を引き出したり、繋いだり、また、やる気にさせたり、やる気をなくさせたりするのは教師の言葉なのだ改めて実感しました。何気なく言葉を発してしまいがちですが、よく考えないといけないと思いました。違う教科の授業を見るのもとても学ぶことが多く、勉強になりました。

【参加者の感想】

・授業の導入でつかみは大切だと再確認しました。身近な情報を扱うことで、生徒たちのやる気が変わるということを実感しました。めあてとまとめのリンクのさせ方、言葉の言い回し方などが難しいと感じました。パターンがあると考えやすいのですが、まだ見つけられていません。



模擬授業を終え、授業内容についてグループごとに協議をしている場面。



参加者がグループ協議の内容を発表し、全体で共有する場面。

【参加者の感想】

・ICTを用いた授業の楽しさが分かった。その中で、残るもの、消えるものに意識をもっていく必要も感じた。身につけさせたいことは、ICTで消すのではなく、板書で残すと良い。様々に児童が考えることのできる授業だったが、初め難しかったので、児童が難しい、考えられない、という反応の時は、子どもの声を拾って、それを広げ、ヒントにしていくなど、児童の立場に立って進めていく必要も感じた。

【参加者の感想】

・グループに小学校の先生がいたことで、中学校とはまた別の視点で考えることができ、それについて深く意見交流できたことが良かった。振り返りの際に、めあての文を書いて、それが分かったという振り返りをしている生徒もいるのかと思いながら生徒役をしました。そうならないような振り返りはどうすればいいのか少し考えました。



模擬授業やグループ協議について、講師が指導・助言を行う場面。